

中国における『人間失格』の翻訳と受容

周 硯 舒*

The Translation and Acceptance of *No Longer Human* in China

ZHOU Yanshu

The translated versions of *No Longer Human* have been so far published by over 70 publishing houses in China, encompassing more than 120 translations in terms of the covers ranging from the first edition to the reprints and the republished new versions. What's more, nearly 60 translators have engaged in translating this work, which promoted the development and prosperity of its translation and publication. This paper attempts to survey the publishing status of the translations of *No Longer Human* in China and then analyse the reasons of its publishing prosperity as well as the readers' acceptance. The author first searched and sorted out the translations of *No Longer Human* published in China and then made a data sheet as database to analyze its translation and acceptance features in China. Based on these researches and analyses, the author further clarified the status recognized by Chinese general readers that *No Longer Human* has been a "a must-read for youth", "the representative work of Japanese I-novels" and "the acme of dispirited culture".

キーワード：人間失格, 太宰治, 中国, 翻訳, 受容

Key Words : *No Longer Human*, Dazai Osamu, China, translation, acception

はじめに

筆者の不完全な統計（「中国訳「人間失格」一覧」添付）によると、「人間失格」は1993年にはじめて中国に翻訳紹介してから2021年12月まで、70家以上の出版社が「人間失格」の訳本を出版し、初版、再刷、再版のブックジャケットの種類で数えると、120種以上のバージョンがあり、そして、60人近くの翻訳者が「人間失格」の翻訳に参加している。特に2009年の太宰治生誕100年以降、中国における「人間失格」の翻訳・出版

* 中央大学政策文化総合研究所客員研究員

Visiting Research Fellow, The Institute of Policy and Cultural Studies, Chuo University

は活発になり、2018年には月に1～2のバージョンが出るほど、中国で出版ピークを迎えた。同じ年、楊偉訳、高詹燦訳、燁伊訳が相次いで累計発行部数100万部を突破しており、いま「人間失格」は中国のQ&Aサイト知乎(Zhihu)、豆瓣(ドラマ、映画、本などを評価、紹介するサイト)、ウェボ(微博)に登録している読者に賞賛され、社会現象級の日本文学作品となっている。中国語による「人間失格」の全訳の数はおそらく世界一といっても過言ではなからう。

なぜ「人間失格」がこれほど出版され、中国の読者に愛読されているのだろうか。中国の一般読者はどのように「人間失格」を受け止めているのだろうか。その原因を考察することが本論の問題意識となる。本稿は総合的に中国の毎年の出版物情報を記録する『全国新書目』、当当、京東などの図書販売サイト、孔夫子古本販売サイトに登録している「人間失格」の書誌情報や、知乎、豆瓣、ウェボに掲載している読者の書評、一部分の翻訳者、出版社編集者に対する聞き取り調査などを通じて、2021年12月の時点で、中国における「人間失格」の翻訳出版状況を調査し、一覧表を作った。それから、一覧表をデータベースとして、中国における「人間失格」の翻訳と受容の特徴についても分析を行った。これらの調査、分析に基づいて、さらに「人間失格」は、「青春必読書」、「日本私小説の代表作」、「喪文化の極致」として、中国一般読者に認識されている現状も明らかにした。

1. 「人間失格」翻訳・出版概況

近代に入ってから、中国における日本文学に対する翻訳は4つの時期に分けられる。第一期は1898～1919年の20年間、第二期は1920～1930年代、第三期は1949～1978年、第四期は1978～現在までの改革開放40年間とされている。この40年間の間に、日本文学の翻訳も2つのピークを迎え、1つは1980～1990年代、もう1つは21世紀に入ってからである。「人間失格」に対する翻訳・出版はちょうどこの2つのピークの最中において、また1990年代、2000年代、2010年代と3つの時期に分けられる。

1980～1990年代、各種日本文学作品選が盛んに出版された。人民文学出版社、上海訳文出版社を始めとする国営出版社から民営の出版社まで、様々な「日本文学作品選」を出した。この時期に出版された代表的な作品選は『日本当代短編小説選(Ⅰ・Ⅱ)』(遼寧人民出版社, 1981), 『日本当代小説選(上・下)』(文潔若編集, 外国文学出版社, 1981), 『日本短編小説選』(中国青年出版社, 1983), 『日本当代文学叢書』(劉和民編集, 安徽文芸出版社, 1985), 『日本文学流派代表作叢書』(七社の出版社協力出版, 1987), 『日本古代随筆選』(人民文学出版社, 1988), 『日本文学叢書』(人民文学, 上海訳文出版社, 1980-1990), 『日本文学名著選訳叢書』(中国友誼出版, 1990), 『日本經典文学大系』(計

58冊、花田文化、1995）、『二十世紀外国文学叢書』（上海訳文出版社、1997）などが挙げられる。

周知の通り、一番最初に中国に翻訳された太宰治の作品は「人間失格」ではなく、「斜陽」（張嘉林訳、上海訳文出版社、1981）である。1993年「人間失格」は北京師範大学文學院教授王向遠によって、はじめて「喪失為人資格」というタイトルに翻訳され、『喪失為人資格——頽廢無頼小説』（北京師範大学出版社）という外国文学名作選に編入され、中国に紹介された。その後、1998年、四川外国語大学教授楊偉に翻訳され、「斜陽」と組み合わせ、『斜陽』（山東文芸出版社）という書名で出されたことがある。それ以来、ほぼ10年間、あまり表に出ていなかった。

なぜ日本で累計発行部数千万部を突破し、夏目漱石の『こころ』と何十年にもわたり累計部数を争っている太宰治の「人間失格」が1990年代から2010年前後まで中国で冷たいあしらいを受けていたのか。最初の翻訳者王向遠の訳者序から、その理由を窺い知ることができるだろう。『喪失為人資格——頽廢無頼小説』は「人間失格」のほかに、「ヴィヨンの妻」、坂口安吾の「白痴」、石原慎太郎の「太陽の季節」、中上健次の「隆男と美津子」、[仏] ルイ＝フェルディナン・セリヌ、[英] アラン・シリトー、[米] J・D・サリンジャー、[米] ケイ・ポイルなどの作品も収録している。この作品集の編集意図を言及するときに、王向遠は以下のように述べている。

これはわが国において最初に斬新・独特な分類方法で編集し、系統的に当代外国の新小説を紹介する叢書である。ごろつきの退廢的な生活を描いた小説は、正人君子たちには認められず、文学の中の粕とゴミだと見られ、取り除くべきだと思われている。しかし、今私たちはこのような小説を堂々と寄せ集め、「名著精選」の名を冠した。恐らく多少誤解を招くことと物議を醸すのは免れないだろう¹⁾。

つまり、無頼頽廢の文学精神は1990年代の中国社会、文化、そして文壇にマッチしていないことを説き明かしているのである。1990年代はちょうど中国が改革開放の10年間の実を結んで、中国人がやる気満々で国の建設に取りかかっていた時期であったので、国家、社会と比べ、「個人」のことを重んじる余地はないといえる。そして、中国文学には、文章が「経国治世」という役割を担っている伝統があるから、「個人」より文学の社会的機能を重視する傾向があるので、「物議を醸すのは免れない」だろう。

21世紀に入ると、インターネットの活躍、出版社私営化、大衆メディアの発達、ネット通販、電子ブック、オーディオブック化などを背景に、「人間失格」に対する翻訳も、活発に行われるようになった。そして、2008年、太宰治没後60年、2009年、太宰治の生

誕100年の際、日本でもいろいろな記念活動が行われ、集英社、新潮社、角川文庫はそれぞれ新装版の「人間失格」を出した。2009年、荒戸源次郎監督により「人間失格」は映画化された。「人間失格」が再び中国読者の視野に入った2008年は、ちょうどこの時期に当たった。その時、「人間失格」はやはり『斜陽』（楊偉・張嘉林訳、重慶出版集団）の一篇として発行された。「人間失格」の中国における翻訳・出版に転機を与えたのは2009年吉林出版集団有限責任会社で出された許時嘉訳の「人間失格」である。中には「人間失格」と「櫻桃」の2つの作品を収録しているが、これは最初に「人間失格」という作品名を作品集名にしたバージョンである。これ以来、「人間失格」の翻訳・出版は踵を返したように、中国で盛んに行われるようになった。

前述したように、2018年楊偉訳、高詹燦訳、燁伊訳が相次いで累計発行部数100万部を突破しており、「人間失格」は月に1つか、2つのバージョンが世に出るほどの出版ピークを迎えた。近年、村上春樹と東野圭吾の勢いを凌いで、何回も中国の一番大きな図書販売ネット「当当」の総合ベストセラーリストNo.1になっている。

このような出版盛況は出版社の宣伝と深く関わっているといえよう。『人間失格』の表紙と帯に大体以下のような宣伝が印刷されている。まず、村上春樹の知名度を借りて、太宰治や「人間失格」を評価したものの例を挙げ「村上春樹に深い影響を与えた作品」（顔月訳）、「村上春樹にインスピレーションを与えた小説」（葛青訳、楊偉訳、作家出版社、2019）、「村上春樹の最も推賞した作家」（劉霄翔・尉佩佩訳）、さらに単刀直入に「村上春樹を読まなくてもいい、太宰治を読まなければならない」（楊偉・張嘉林訳）と帯に刷っている。また、太宰治の日本文学史上における地位を指摘するものも少なくはない。「日本文学巨匠、無頼派文学大師の作品」（海哲訳）とか、「川端康成、三島由紀夫と並ぶ日本戦後文学の代表作家、日本戦後文学の最高峰」（瀾昕訳）とか、「日本文学の三神器の一つ」（張佳東訳）とか、「川端康成、三島由紀夫よりも優秀な作家」（崔艶燕訳）などが挙げられる。そして、太宰治の生涯を概観し、読者の注目を引き付けるものも見られる。「39年の生涯 20年の創作 5回の心中自殺 最後も心中」（楊偉・張嘉林訳）、「太宰治の魂の奥深いところからの生命絶唱」（楊偉訳、作家出版社、2019）、「生に対する困惑、愛に対する無能、絶望な告白」（燁伊訳、武漢出版集団、2013）、「読み終わったら、自分が一人ぼっちじゃない、ほっとする感じにさせ、暗い現実から光を見つけることができる」（施小煒訳）、「残酷な青春・疼痛の青春・純粋な青春、人生に迷っている青年たちへ」（顔月訳）、「天才作家・時代の子・運命の子」（劉霄翔・尉佩佩訳）などが代表である。それから、表紙の裏には奥野健男、佐藤干夫、魯迅、鳥居邦朗、ゴースキー、止庵、王家衛らの有名作家、評論家、監督、俳優のコメントを印刷するのも普通である。田原訳は最後のページに中島京子、平野啓一郎、多和田葉子、阿部公彦など今活躍している日本



図1 累計販売百万部突破の『人間失格』訳本表紙

の作家、評論家のコメントも引用している。任艷紅訳は表紙の裏に豆瓣読者の感想を引用してしまった。また、楊偉、林少華、竺家榮のような翻訳家たちは日本文学研究という立場から、訳者序も付随し、読者の「人間失格」に対する理解に力を注いでいる。

以上のことから見ると、出版側、翻訳者、読者はともに「人間失格」の解釈共同体になって、この作品の中国での受容に影響を与えているというにほかならない。

2. 百花繚乱の訳本

「人間失格」のタイトルの中国語訳は「人間失格」, 「喪失为人的资格（王向遠、楊偉訳）」, 「人的失格」（林少華）, 「不复为人」（施小煒）など4種類ある。「人間失格」は日本語としても違和感があるが、訳本の題名は今大体「人間失格」に定着している。「豆瓣」という読書ウェブサイトに「『不配为人』」に翻訳したほうがもっと簡潔で、中国語らしい」というような読者の意見も見られる。「喪失为人的资格」, 「不配为人」, 「不复为人」の3種類の翻訳は最も中国語に近いが、読者はもう「人間失格」という題名になれているため、出版社側が売れ行きのことも考えるうえで、普通「人間失格」に統一されている。

「人間失格」の翻訳者は「一覧表」に57人を列挙しているが、中には、楊偉（四川外国语学院）, 林少華（中国海洋大学）, 竺家榮（国際関係学院）のような、大学で日本語教育、日本文学研究に携わっている先生たちは大きな割合を占めている。まず挙げたい翻訳者は黄瀛の弟子である楊偉である。楊偉訳は今12社によって出版され、14種のバージョンを持っている。日本文学の雰囲気溢れ、読者の注目を集めているので、何度も「当当圖書ネット販売総合ベストセラーリスト」No.1になったことがある。2014年から、楊偉訳は累計200万冊も売れた。楊偉は修士の時太宰治を研究テーマにした。訳者序はその時

の研究に基づいて完成したものであるそうだ。楊偉訳が中国で一番多く出版され、広く読まれ、親しまれているバージョンだといっても過言ではない。

そして挙げなくてはならない訳者は著名な翻訳家文潔若である。2021年、出版社側に誘われ、文潔若も「人間失格」の翻訳出版に加わって、「人間失格」の中国語訳本をもっと豊富にさせた。文潔若は1927年生まれ、作家、翻訳家蕭乾の奥さんで、中国で日本文学作品を一番多く翻訳した翻訳家だと公認されている翻訳家である。彼女は芥川龍之介を始め、川端康成、三島由紀夫、有吉佐和子、井上靖など数多くの日本作家の作品を翻訳したので、2000年度日本外務大臣表彰を受賞し、2002年勲4等瑞宝章も受賞、中国翻訳協会に「翻訳文化終身成就賞」という称号を授与された。訳者の中に、田原、小岩井のような詩人、作家、童瀟曉、鄒楽帆のような編集者も翻訳・出版に加わった。

120種以上の表紙の訳本はそれぞれの特徴で自分の市場を持っているが、楊偉訳、樺伊訳、高詹燦訳、竺家榮訳、田原訳が読者に認められているといわれている。書名は同じ『人間失格』であるが、中には太宰治のほかの小説も含まれているのが普通である。それぞれの訳本の中に収録されている作品が多少違っているので、読者は自分の好みによって、訳本を選ぶことができる。その中には、太宰治の作品集の一冊として出版され、あるいは日本文学の名作として、夏目漱石の『吾輩は猫である』、芥川龍之介の『羅生門』などと並んで、1つのセットにして出版されているバージョン（葛青訳）もあるし、世界文学の名作として、ジッダの『背徳者』と姉妹篇になって、一冊に編集して出版されているバージョン（江蘇鳳凰文芸出版社、2017）もある。以下、太宰治の作品集の一冊、日本の名作選の一冊、世界文学名作選の一冊としての『人間失格』、日漢対訳版、単行本、イラスト版、オーディオブック、ポケットブックなどの視点から、『人間失格』訳本の多様性を検討していこう。

太宰治作品集の一冊として出版されたバージョンといえば、まず2009年版の許時嘉訳が挙げられる。この作品集は全6冊、他に『斜陽（斜陽）』（周敏珠訳）、『女生徒』（李桂芳訳）、『陰火（陰火）』（郭永欽訳）、『走れ！メロス（奔跑吧！梅勒斯）』（鄒微・曹逸氷・李雪蓮訳）、『パンドラの匣（潘多拉盒子）』（馬傑、郭小超訳）などもある。同じ許時嘉訳は2017年、すなわち太宰治没後60年の時、九州出版社によって、記念版を出した。この太宰治没後60年記念版は全4冊、他に『思う葦（思考的芦苇）』（劉子倩訳）、『女生徒』（李桂芳・許時嘉訳）、『二十世紀の旗手（二十世紀旗手）』（蕭云菁・鄭天恩訳）がある。重慶出版集団が出版した太宰治經典作品集は全5冊、『人間失格』（于婧訳、文潔若訳）の他に、『晩年（晩年）』（朱春育訳）、『道化の花（小丑之花）』（文潔若訳）、『櫻桃（櫻桃）』（陳齡・葉琳訳）、『斜陽』（陳徳文訳）がある。また、竺家榮訳（太宰治作品集、全3冊、他に『斜陽』『潘多拉之匣（パンドラの匣）』）、崔艶燕訳（日本文学大師太宰治作品選、全

4冊、他に『潘多拉盒子(パンドラの匣)』(李月婷ら訳)、『如是我聞(如是我聞)』、『斜陽』(李月婷ら訳)も太宰治作品選の中の一冊として販売されている。

日本の名作とセットになって出版されたバージョンも少なくはない。例えば、夏目漱石の『吾輩は猫である(我是猫)』、芥川龍之介の『羅生門(羅生門)』、宮沢賢治の『銀河鉄道之夜(銀河鉄道之夜)』、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃(陰翳礼賛)』と名作家経典作品シリーズ(全5冊)になった燐伊訳もその中の一つである。『羅生門』、『吾輩は猫である』と3冊セットで販売されている王榮波訳も見過ごすことができない。

日漢対訳版の中にも林少華訳、施小煒訳が日本の名作シリーズの中の一冊として販売されている。1980年代から、外国語学習者を対象に、出版社側はよく外国文学作品を外国語と中国語の対訳という形式で出版している。左側のページに日本語、右側のページに中国語というバージョンもあれば、前半は日本語、後半は中国語というバージョンもある。2014年前後、『人間失格』が2回目の出版ピークを迎えた際に、日漢対訳版も出され始めた。対訳版を出版する出版社は普通大学に属するものが多いが、『人間失格』の場合は多種多様である。今市場に流通している対訳版は王述坤訳(大連理工大学出版社、2014年)、林少華訳(中国宇航出版社、2015・2021年)、施小煒訳(華東理工大学出版社、2017年)、新鋭智図書事業部訳(北京時代華文書局、2019年)、孫逢明訳(海豚出版社、イラスト版、2020年)などが挙げられる。林少華、施小煒はともに村上春樹の翻訳で名を知られている名翻訳家で、『人間失格』の日漢対訳の出版をきっかけに、他の日本名作対訳版も出している。林少華対訳版を例にしてみよう。2015年に出版されたバージョンは日本近代文学名作日漢対訳の中の1冊である。このシリーズは全10冊、全部林少華訳で、他に堀辰雄の『風立ちぬ(起風了)』、太宰治の『斜陽(斜陽)』、芥川龍之介の『河童(河童)』『侏儒の言葉(侏儒的警語)』『羅生門(羅生門)』、夏目漱石の『こころ』『坊ちゃん(哥儿)』、小林多喜二の『蟹工船(蟹工船)』、江戸川乱歩の『陰獣(陰兽)』、谷崎潤一郎の『春琴抄(春琴抄)』がある。2019年版は2015年の10冊のうえに江戸川乱歩の『二銭銅貨(两分銅币)』『短編小説選屋根裏の散歩者(阁楼里的散歩者)』を加えた。施小煒訳の日漢対訳版は日本文学経典(全8冊)の中の一冊で、ほかに堀辰雄の『風立ちぬ(起風了)』(施小煒訳)、芥川龍之介の『羅生門』(郭勇訳)、宮沢賢治の『短編作品選』(田建國訳)、夏目漱石の『吾輩は猫である(我是猫)』(鄒波訳)、『こころ』(杜勤訳)、江戸川乱歩の『日本短編推理小説選』(錢曉波訳)がある。日本語オーディオをサービスするのはセーリングポイントである。他に、訳本とはいえないが、日本文学の鑑賞と勉強のために、多少の解説を加え、大学の日本文学作品鑑賞の授業の教科書として出版されている日本語版(『太宰治作品選』、鄒波注訳、上海外国語教育出版社、2010年)もある。2018年、青島出版社は林少華訳の日本文学「愛」と「滅」のシリーズのポケットブックも発行した。全6冊

で、他に『斜陽』、芥川龍之介の『羅生門』、夏目漱石の『心』、江戸川乱歩の『陰獣』、三島由紀夫の『金閣寺』がある。

そして、この2、3年、「人間失格」の単行本が増えてきた。現在、孫曉傑訳、田原訳、鐘干英訳、安安訳、文潔若訳など5種類の単行本が出版されている。イラスト版も出している。田原訳は「人間失格」の中国での最初のイラスト版で、2019年5月に発売されたばかりであるが、爆発的な人気を呼び、わずか半年の間に、もう42万冊も売れたそうである。

もう一つここで言及したい特徴は「人間失格」のオーディオブック化である。「人間失格」が「読む本」のほかに、「聞く本」として中国でオーディオブック化されている。中国ではスマホの普及と共に、オーディオブックのシェアが広がりつつある。聴き放題サービスとか、アプリによってオーディオブックの特色はさまざまである。ダウンロードランキングNo.1の「オーディオブック」アプリ——ヒマラヤ（喜馬拉雅）（国際版がある）を例にしてみよう。ヒマラヤの会員数は6億人を超えているそうである。「人間失格」は楊偉訳、竺家榮訳、高詹燦・袁斌訳、施小炜訳、曹捷平訳、燁伊訳、吳曦訳、陸求实訳など十種類以上の訳本がオーディオブック化され、ヒマラヤに登録されている。日本語版（ナレーター：上海復旦大学日籍専門家丹波秀夫、華理音声）もある。利用者数（2021年12月まで）から見れば、竺家榮訳が一番多く、382.1万回、つぎは吳曦訳198万、曹捷平訳56.1万、高詹燦・袁斌訳50.2万、施小炜訳47万などである。総合評価順で見ると、10点満点で、施小炜訳（9.7点）、竺家榮訳（9.6点）、高詹燦・袁斌訳（9.4点）、曹捷平訳（9.1点）などと並べられている。ヒマラヤの他に、ウィーチャット聴書、番茄暢聴などの「オーディオブック」アプリにも「人間失格」のオーディオブックも登録されている。「読む本」の場合、人気があるかどうかは翻訳の質が深く関わるのに対し、オーディオブックの場合は、ナレーターや声優の声が美しいかどうか、そして、無料であるかどうかにも関係があるので、紙版「人間失格」の人気度とは比べられない。しかし、本を読むより聞く方が好まれている今、オーディオブック版が紙版の売れ行きの低下にも大きく影響している。

3. 視覚的空間としての『人間失格』

表紙の種類で数えたら、「人間失格」は120種以上のバージョンがあると前述した。「カバーが格好いいな」と思い、購入する読者も数少ないといえるだろう。黒地に赤い活字、黒地に白い活字、白地に黒い活字、赤地に白い活字、赤地に黒い活字の表紙は普通である。もちろん、集英社版の表紙を模倣して、太宰治の写真を白黒、あるいは色刷りで、そ

の上に活字をダブらせる表紙も多く見られる。ほかに、グレー系、青系、緑系、黄色い系、個性の溢れるデザイン、レトロ系、漫画肖像系、孤独な人間像系など数え切れないほど多い。

2018年田原訳のイラストを始めとして、この2、3年イラスト版の『人間失格』は相次いで発行され、中国における「人間失格」訳本に新風を与えている。

2019年、北京時代華文書局は新鋭智図書事業部訳にゴッホの名画を挿絵にして出版した。帯の宣伝は「太宰治の文字+ゴッホの名画」である。太宰治が「文学界のゴッホ」だ



図2 黒地，白地，赤地の表紙

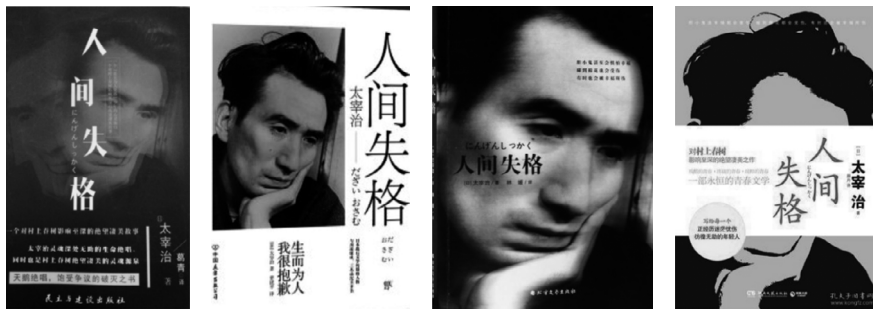


図3 肖像写真の表紙



図4 孤独な人間像の表紙



田原訳

燐伊訳

童瀟驍訳

張佳東訳

劉子倩訳

図 5 肖像漫画表紙



田原訳

劉子倩訳

孫逢明訳

図 6 イラスト



図 7 田原訳の周辺グッズ：ポスター，ハガキ，しおり

と評され、『人間失格』の第二の手記で、ゴッホの自画像を描写したのに由来するのかもしれない。そして、二人とも、最後自殺を遂げたのももう一つの原因にはかならない。

近年、読者の趣味に応じて、プレゼントとして、太宰治の肖像画を印刷したしおり、ポ

スター、漫画、ノートなどを付けているバージョン(田原訳)も出てきた。逆に、周辺グッズがなく、シンプルだと標榜するバージョン(鐘干英訳)もある。

表紙のデザインから「人間失格」受容のイメージが窺える。太宰と彼の『人間失格』は、すでにある種の文化的符号、ある種の流行、ある種の品位と格調となったといっても差し支えない。

4. 読者が見えている『人間失格』

一番早い訳本『喪失為人資格——頽廢無頼小説』は「人間失格」のほかに、「ヴィヨンの妻」、坂口安吾の「白痴」、石原慎太郎の「太陽の季節」、中上健次の「隆男と美津子」、[仏] ルイ＝フェルディナン・セリヌ、[英] アラン・シリトー、[米] J・D・サリンジャー、[米] ケイ・ボイルなどの作品も収録されている。こういう点から見れば、「人間失格」は中国では最初に、やはり無頼派の代表作として受け入れられたことがわかる。

2010代に入ってから、訳本の表紙に「青春必読書」というような宣伝が現れた。顔月訳(湖南文芸出版社、2013年)、呉曦訳(湖南文芸出版社、2018年)は「永遠の青春文学」、「残酷な青春・疼痛の青春・純粋な青春、人生に迷っている青年たちへ」と帯に書いている。戦建麗訳(浙江工商大学出版社、2018年)、海哲訳(中国致公出版社、2017年)の表紙は「夏目漱石、村上春樹と並んで日本の青春文学の三大家」と太宰を定めている。2019年華東師範大学出版社の林少華訳は織田作之助の『青春の逆説(青春の悖論)』、坂口安吾の『白痴(白痴)』と「疼痛青春三部曲」にして、販売されている。これに対して、読者の反応も多種多様である。「豆瓣の評価が高くても、未成年のうちは、絶対『人間失格』を読まない。」と宣言する青年読者もいるし、「太宰は私だ」、「太宰のような人間がいたら、私はもう怖くない、自信を持って生きていける」と励まされる読者もいる。以上のように「青春必読書」という認識はもう深く読者の印象に残っている。奥野健男は新潮版解説で、「この作品は、ある性格を持って生まれた人々の、弱き美しき悲しき純粋な魂を持った人々の永遠の代弁者であり、救いである。」²⁾と述べる。

調査の際、日本ではあまり「私小説」として認識されていない「人間失格」は中国では「私小説」の最も代表的な作品として盛んに翻訳、宣伝されていることが発見できた。2010年代から、販売ネットの宣伝や小説の帯、表紙、作者紹介に明らかに「私小説の代表作家」(楊偉訳、燁伊訳、鄒宇訳)、「純粋な私小説」(曹捷平訳、燁伊訳、戦建麗訳、鄒宇訳)、「私小説のピラミッド」(鐘干英訳)などのキーワードが現れた。中国で日本私小説として最も流行っている作品は「人間失格」であるといえるだろう。

「人間失格」は体裁上、私小説形式のフィクションでありつつも、主人公の語る過去に

は太宰自身の人生を色濃く反映したと思われる部分があり、自伝的な小説とも考えられている。林少華は訳者序に「この小説は確かに作家自身の面影があるが、フィクションの部分は少なくない。だから、自伝小説とも言えるが、完全な自伝小説とは言えない。」と述べているが、作品が太宰治本人のイメージと分かちがたいので、「私小説家」太宰治像がすでに一種のムード、雰囲気として読者の意識に存在しているともいえるだろう。

ここで、中日両国における「私小説」という概念に対する認識の違いを言及する必要があると思う。1920年代、「私小説」という文学用語が日本の文壇に登場し、ほぼ同時に、中国の日本留学生魯迅、郭沫若、郁達夫らによって、中国に紹介された。そして当時、彼らを始め、多くの中国文学者は私小説の創作を实践した。それ以来、「私小説」はずっと一つの文学用語として中国で使われ、中国文学にも影響を与え、定着している。私小説は、長期にわたって中国の文学界で注目を集めている。中国では近代文学が生まれてから、「私小説」という概念が文壇で話題になったのは大体3つの時期がある。まずは1920年代である。即ち、日本に留学し、日本近代文学の影響を受けた魯迅、創造社の作家郭沫若、郁達夫、張資平などによって書かれた「自我小説」の風靡した時期である。「自我小説」は「私小説」と同じ、作者の個人体験に基づいて書いた自叙伝的な小説で、中国の文学史上で最も日本の私小説に近い存在である。当時の代表作としては魯迅の「小さな出来事」(1919)、郁達夫の「沈淪」(1921)などが挙げられる。しかし、その後、中国は激動な戦争期に入り、「個人」と比べて、「国家」「民族」の運命が中国当時の知識人の関心を集めた。その後、新中国が成立してまもなく文化大革命が始まり、文学創作は殆ど停滞状態に陥っていた。したがって、1920年代以後、「自我小説」は文壇から姿を消し、「私小説」という言い方もあまり使わなくなった。

「私小説」という用語が再び提起されたのは、改革開放を迎えた1990年代である。この時期に登場した私小説の書き手は主に女性作家である。陳染の「私人生活」(1996)、衛慧の「上海バイビー」(1999)などが話題作になって、反主流、反モラル、そして大胆な性描写で注目されていた。しかし、その時、「私小説」の「私」という文字の意味はすでに変わった。実は中日における「私」という漢字に対する理解の違いが両国の私小説形態の差異も引き起こした。周知のように、日本の「私小説」の「私」という漢字は「わたくし」と読んで、わたくし、わたし、自分、ほく、おれというような一人称に用いている。私小説は、つまり、作者が自身をモデルに創作する小説を指している。しかし、中国語の「私」は「公」の反対語として使われ、国家、ナショナル、世間に対する個人の意味を持っている。「私小説」というと、私的な小説で、個人に焦点を置き、プライベートを暴露する小説だと理解されている。中国では、1990年代に私小説というジャンルの人気の大きな理由が、やはり「私」という漢字に結びつく「公認された公的覗き見趣味」³⁾にあ

ることは疑う余地がない。

勿論、「私小説」という概念は、日本から輸入されてきたということは、中国作者、読者もよくわかっている。しかし、この概念の実質や文化的差異について、誰も追究しないまま使っている。中国における「私小説」に対する認知、特に「私」という漢字に対する理解はやはり日本と大きな違いがある。日本私小説作家として田山花袋、志賀直哉、葛西善蔵、島崎藤村と共に、村上春樹、森鷗外、夏目漱石、川端康成、また、青山七恵、小川洋子、又吉直樹、村田沙耶香のような中国で幅広く知られた日本文学を代表する作家たちがその名を連ねている。中国で日本私小説として認識されている小説は私小説の名作のほかに、太宰治の「人間失格」、森鷗外の「舞姫」、夏目漱石の「こころ」、川端康成の「伊豆の踊り子」、小川洋子の「妊娠カレンダー」、青山七恵「ひとり日和」などもあることからこういう事情が説明できるだろう。

「青春必読書」「私小説」のほかに、『喪文化』の代表、「一代喪神」、「喪の極致」なども「人間失格」を評価するキーワードになっている。「喪文化」はここ数年中国の流行語にもなって、若者世代に流行した無気力、悲観、絶望などの消極的な感情から生まれたサブカルチャーの一つである。「寝そべる葛優（葛^ウ躺）」、「横になる（躺平）」はこの「喪文化」の代表現象である。「人間失格」に溢れている「頹廢しながらも真誠」というような雰囲気はちょうどこのような文化現象に一致しているので、「人間失格」はまた読者の視野にはいつてきた。

結 び

以上をまとめてみると、1993年「人間失格」ははじめて中国に翻訳紹介してから今まで、30年近くの間爆発的に翻訳出版され、計70家以上の出版社、120種以上の表紙のバージョン、そして、60種近くの中国語訳を持つ。付表の「一覧表」に羅列した収録作品から見えていえることは、太宰治の名作は「人間失格」のいろいろな形の翻訳・出版によって、今まで大体中国語に翻訳されている。翻訳されていない作品も多少あるが、「人間失格」の新版中国語訳本の開発と共に、近い将来翻訳されるに違いない。

また、「人間失格」は太宰治の作品集の一冊、日本の名作選の一冊、世界文学名作選の一冊として販売され、そして日漢対訳版、単行本、イラスト版、オーディオブック、ポケットブックなどいろいろな形で市場に流通している。ある意味では「人間失格」の訳本はもう中国出版文化の一つの風景となった。

そして、「人間失格」は中国では多くの読者に愛読されていることもわかった。「青春必読書」「私小説のピラミッド」「喪文化の代表」というような認識はもう読者の心に根を下

ろしている。「無頼顔廢」にしる、「喪の極致」にしる、読者はこの一編の小説により、心の奥深いところに太宰治と共感を感じ、永遠に心の中に生き残るであろう。

60種以上の訳本はその質はどうだろうか。もちろん優れている翻訳が少なくはないが、これらの翻訳をベースにして潤色したものに過ぎないものもあるという疑惑がつきまとう。それをさらに指摘するのは本論の主旨とははずれるし、原稿幅の制限もあるため、訳本の質などについて詳しく、比較して分析することは今度の課題にしておこう。

注

- 1) 王向遠 (1993) 『喪失為人資格—顔廢無頼小説』北京師範大学出版社。
- 2) 奥野健男 (2007) 『『人間失格』解説』新潮社。
- 3) イルメラ・日地谷 (1992) 『私小説—自己暴露の儀式』三島憲一ら訳、平凡社、426頁。

付表 『人間失格』中国語訳一覧

番号	翻訳者	発行書名	初版年月	出版社	収録作品
1	王向遠	喪失为人资格——颓废无赖小说	1993年6月	北京師範大学出版社	維朶之妻(ヴィヨンの妻)(張嘉林訳)、白痴(坂口安吾、柯森羅訳)、太陽的季節(太陽の季節)(石原慎太郎、孫利人訳)、隆男与美津子(中上健次、譚晶華訳)、ほかに[フランス]ルイ=フェルディナン・セリヌス、[英]アラン・シリトー、[米]J・D・サリンジャー、[米]ケイ・ボイルたちの作品も収められている。
2	楊偉	斜阳(楊偉、晋学新訳)	1999年1月	山東文芸出版社	『外国優秀小説選粹』の一冊、喪失为人资格(人間失格)、魚服記(許金龍訳)、満愿(満願)(唐先容訳)、富岳百景(富嶽百景)(晋学新訳)、櫻桃(櫻桃)(趙戈非訳)、維朶之妻(ヴィヨンの妻)(楊偉訳)、斜阳(斜陽)(晋学新、穆麗琴訳)
		斜阳(楊偉、張嘉林訳)	2008年10月初版第1刷 2009年7月第2刷	重慶出版集團	译者序(訳者序):“永遠的少年”太宰治及其文学的心理軌迹(“永遠的少年”——太宰治及びその文学の心理的軌迹)(楊偉)、斜阳(張嘉林訳)、維朶之妻(ヴィヨンの妻)(楊偉訳)、人間失格(楊偉訳)
		人間失格(楊偉、蕭云普訳)	2010年7月	吉林出版集團有限責任公司	人間失格、Good-bye、变心、行進(行進)
		人間失格	2018年3月初版 2019年9月第3刷	江蘇鳳凰文芸出版社	人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼(燈籠)、満愿、美男子与香烟(美男子と煙草)、皮肤与心、蟋蟀(蟋蟀)、櫻桃、二十世紀旗手
			2018年8月初版 2019年3月第3刷 2019年11月第5刷 2020年4月第6刷		人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼(燈籠)、満愿、美男子与香烟(美男子と煙草)、皮肤与心、蟋蟀(蟋蟀)、櫻桃、二十世紀旗手、奔跑吧、梅勒斯(走れ!メロス)、译后记(訳者あとがき):“永遠的少年”、附录:太宰治年表
			2020年8月		人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼(燈籠)、満愿、美男子与香烟(美男子と煙草)、皮肤与心、蟋蟀(蟋蟀)、櫻桃、二十世紀旗手、奔跑吧、梅勒斯(走れ!メロス)、译后记:“永遠的少年”、附录:太宰治年表
		人間失格	2015年8月初版 2020年2月第15刷	作家出版社	译者序:“永遠的少年”太宰治及其文学的心理軌迹、人間失格、維朶之妻、Goodbye、灯笼、満愿、美男子与香烟、皮肤与心、蟋蟀、櫻桃
			2019年5月初版(精装)		人間失格、二十世紀旗手、奔跑吧、梅勒斯、維朶之妻、斜阳、櫻桃、蟋蟀、Goodbye、译后记:“永遠的少年”太宰治及其文学的心理軌迹
		人間失格	2019年3月	吉林大学出版社	人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼、満愿、美男子与香烟、皮肤与心、蟋蟀、櫻桃
		人間失格	2019年6月	雲南美術出版社	人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼、満愿、美男子与香烟、皮肤与心、蟋蟀、櫻桃、奔跑吧、梅勒斯、二十一世紀旗手、阿三、黄金风景、太宰治给妻子美知子的信、译后记:“永遠的少年”太宰治及其文学的心理軌迹
		人間失格	2020年6月	時代文芸出版社	译者序、人間失格、二十世紀旗手、皮肤与心、灯笼、蟋蟀、満愿、美男子与香烟、櫻桃、阿三、奔跑吧、梅格斯、維朶之妻、黄金风景、Good-bye、附录:太宰治年譜
		人間失格	2020年7月	中央編訳出版社	人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼、満愿、美男子与香烟、皮肤与心、蟋蟀
人間失格	2021年4月	長江文芸出版社	人間失格、維朶之妻、Goodbye、美男子与香烟、皮肤与心、櫻桃、奔跑吧、梅格斯、二十世紀旗手——生而为人、我很抱歉、阿三		
人間失格	2021年4月	河南文芸出版社	译者序、人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼、満愿、美男子与香烟、皮肤与心、蟋蟀、櫻桃、奔跑吧、梅格斯、二十世紀旗手、阿三、黄金风景		
人間失格	2022年1月	浙江文芸出版社	译者序:“永遠的少年”太宰治及其文学的心理軌迹、人間失格、維朶之妻、Good-bye、灯笼、満愿、美男子与香烟、櫻桃、奔跑吧、梅格斯、二十世紀旗手、太宰治年譜		
3	許時嘉	人間失格	2009年5月	立村文化有限公司(台湾)	

		人間失格	2009年10月初版 2011年1月まで6刷	吉林出版集团 有限責任公司	人間失格, 櫻桃, 太宰治年譜	
		人間失格	2014年3月	吉林出版集团 有限責任公司	人間失格, 櫻桃, 斜阳, 奔跑吧! 梅勒斯, 維庸之妻, 叶櫻与 魔笛, 皮肤与心, 羞耻, 太宰治年譜	
		人間失格	2018年5月	吉林出版集团 有限責任公司	人間失格, 櫻桃, 斜阳, 奔跑吧! 梅勒斯, 維庸之妻, 叶櫻与 魔笛, 皮肤与心, 羞耻, 太宰治年譜	
		人間失格 (周 敏珠・許時嘉 訳)	2017年8月	九州出版社	关于作者: 深陷自我拔伐中的文学家, 关于《斜阳》: 美丽灭 亡下的微光, 关于《人間失格》, 斜阳 (周敏珠訳), 人間失格 (許時嘉訳)	
4	李欣欣 遊繡月	人間失格	2010年1月	万卷出版公司	人間失格, 鱼服记, 小丑之花 (「道化の華」), 逆行, 阴火	
	李欣欣 遊繡月 潘曼雯 葉婉奇		2014年2月	上海文芸出版 社	人間失格, 鱼服记, 小丑之花, 逆行, 阴火, 斜阳, 晚年, 跑 吧! 美乐斯 (「走れ! メロス」), 东京八景, 他已非昔日之他, 至今仍然被广为诵读的太宰	
5	高橋燦 袁 斌	人間失格	2010年12月	雲南人民出版 社	人間失格, 美男子与香烟, 满愿, 候鸟 (渡り鳥), 秋风记, 心之王者, 雪夜的故事 (雪の夜の話)	
			2013年3月	天津人民出版 社 (果麦)	人間失格, 奔跑吧! 梅勒斯, 維庸之妻, 斜阳, 道化之花, 美 男子与香烟, 满愿, 候鸟, 秋风记, 雪夜的故事, Goodbye, 附录・太宰治年譜	
			2018年5月		人間失格, 奔跑吧! 梅勒斯, 維庸之妻, 斜阳, 道化之花, 美 男子与香烟, 满愿, 候鸟, 秋风记, 雪夜的故事, Goodbye, 附录・太宰治年譜	
6	燐 伊	人間失格	2011年12月2017年 1月第2刷2018年 2月第3刷	武漢出版社	人間失格, Goodbye, 維庸之妻, 阴火, 满愿, 候鸟, 心之王 者, 秋风记, 雪夜的故事, 美男子与香烟, 奔跑吧! 梅勒斯	
			2013年7月		人間失格, Goodbye, 維庸之妻, 阴火, 满愿, 候鸟, 心之王 者, 秋风记, 雪夜的故事, 美男子与香烟	
			2016年11月	天津人民出版 社	人間失格, Goodbye, 維庸之妻, 阴火, 满愿, 候鸟, 心之王 者, 秋风记, 雪夜的故事, 美男子与香烟	
			2018年8月	江蘇人民出版 社	人間失格, Goodbye, 維庸之妻, 阴火, 满愿, 候鸟, 心之王 者, 秋风记, 雪夜的故事, 美男子与香烟	
			2018年12月		人間失格, Goodbye, 維庸之妻, 阴火, 满愿, 候鸟, 心之王 者, 秋风记, 雪夜的故事, 美男子与香烟, 奔跑吧! 梅勒斯	
			2018年7月	江蘇鳳凰科学 技術出版社	人間失格, Goodbye, 維庸之妻, 阴火, 满愿, 候鸟, 心之王 者, 秋风记, 雪夜的故事, 美男子与香烟	
			2020年7月		人間失格, 維庸之妻, 雪夜的故事, Goodbye, 阴火, 候鸟, 心之王者, 满愿	
7	楊慶慶 吳小敏 金 靈	人間失格	2012年3月	國際文化出版 公司	人間失格, 斜阳, 鱼服记, 罗马风格建筑, 逆行, 断崖的错觉, 满愿, 富岳百景, 犬畜谈, 回忆, 父亲, 太宰治創作年表, 訳 者あとがき	
8	安 安	人間失格	2012年7月	古吳軒出版社	人間失格, 阴火, 断崖的错觉, 維庸之妻, 秋风记, 奔跑吧, 梅勒斯, 父亲, 满愿	
			2018年12月第3刷 表紙改版			
9	周天荷	世界經典中編 選	人間失格	2013年1月	江蘇文艺出版 社	人間失格, 背德者 (ジート), 当代英雄 (ロシア詩人ミハイ ル・レーロモントフ『現代の英雄』)
		人間失格 (周 天荷, 李俊雨)		2017年11月	江蘇鳳凰文艺 出版社	人間失格, 背德者 (ジート)
10	顏 月	人間失格	2013年4月	湖南文芸出版 社	人間失格, 小丑之花, Goodbye, 奔跑吧, 梅勒斯!	
11	于 婧	人間失格	2013年7月	重慶出版集团	單行本	
12	陸求実	人間失格	2013年8月	陝西師範大学 出版社	人間失格, 斜阳, 微明, 櫻桃, 太宰治年譜	
			2019年11月		斜阳, 人間失格, 富岳百景, 快跑, 梅勒斯! 潘多拉之盒, 微 明, 維庸之妻, 櫻桃, Goodbye	
			2018年4月初版 2020年8月第13刷	江蘇鳳凰文艺 出版社	人間失格, 斜阳, 微明, 櫻桃, 太宰治年譜	

13	竺家荣	人間失格 斜阳	2014年3月	上海訳文出版社	悲劇人生的自我救贖(訳者序)、人間失格、斜阳
		人間失格	2016年1月		我要向山举目(訳者序)、人間失格、女生徒
		人間失格	2019年8月		我要向山举目(訳者序)、新版訳者序、人間失格、櫻桃、斜阳、維庸之妻、快跑、梅洛斯!女生徒、Goodbye(日本語版)
14	王述坤	人間失格(日漢対訳)	2014年3月 2019年5月第6刷表紙改版	大連理工大学出版社	訳者序、人間失格(日漢対訳)
		人間失格	2019年3月	訳林出版社	人間失格、斜阳、译后记、新版译后记
15	李秋音	人間失格(日漢対訳)	2014年7月	新世界出版社	単行本(日漢対訳)
16	劉霄翔 尉佩佩	人間失格	2014年8月	湖南文芸出版社	人間失格、斜阳、維庸之妻、奔跑吧、梅洛斯、太宰治情死考
		人間失格	2017年7月		人間失格、斜阳、維庸之妻、奔跑吧、梅洛斯、太宰治情死考
17	崔艶燕	人間失格	2015年2月	北京理工大学出版社	人間失格、維榮之妻、东京八景、断崖的错觉、古典风、秋风记、蓄犬谈、关于爱与美、义务、某些忠告、诸位的位置、前进一步退两步(一步前进两步退却)
18	馬永平 袁 斌	人間失格	2015年4月	現代出版社	人間失格、奔跑吧!梅洛斯、維庸之妻、斜阳、美男子与香烟、满愿、候鸟、秋风记、雪夜的故事、Goodbye、附录:太宰治年谱
19	林少華	人的失格 别名人間失格(日漢対訳)	2015年10月 2021年1月	中国宇航出版社	日漢対訳単行本、訳者序がある
		斜阳 人的失格	2015年6月		
		人的失格 斜阳	2019年2月	北京日報出版社	人的失格、斜阳
		人間失格	2019年12月		単行本
		人的失格人間失格	2018年1月		青島出版社
20	李建雲	人間失格	2016年1月	浙江文芸出版社	鱼服记、櫻桃、阴火、富岳百景、人間失格
21	何青鵬	人間失格	2016年10月	現代出版社	人間失格、斜阳、如是我闻
22	曹捷平	人間失格	2016年11月初版 2020年6月まで20回最刷、表紙3種類	中国友誼出版公司	訳者序、人間失格、維榮之妻、斜阳
		人間失格	2021年4月		人間失格、維榮之妻、斜阳、Good bye、灯笼、美男子和香烟、皮肤和心、雪夜的故事、阴火、奔跑吧、梅洛斯、候鸟、蟋蟀、心之王者、櫻桃、满愿、秋风记、附录、太宰治给妻子美知子的遗书
		人間失格	2021年1月	広東人民出版社	人間失格、維榮之妻、斜阳、译后记、太宰治年谱
23	葛 青	人間失格	2017年3月	民主与建設出版社 (ISBNが一つだが、6種類の違う表紙がある。)	译者的话(訳者の話)、人間失格、斜阳、Goodbye、附:太宰治年谱
			2018年7月第2刷		
			2018年9月第3刷		
			2019年1月第2刷		
			2019年3月第3刷		
24	施小炜	不复为人人間失格(日漢対訳)	2017年5月	華東理工大学出版社	単行本(日漢対訳)
25	瀾 听	人間失格	2017年6月	中国華僑出版社	人間失格、向前奔驰!梅洛斯、維庸的妻子、斜阳、道化之花、俊男子和烟草、满愿、候鸟、秋风记、雪夜故事、Goodbye、附录:太宰治年鑑
26	林 媛	人間失格	2017年6月	北方文芸出版社	人間失格、奔驰吧!梅洛斯、道化之华、維庸之妻子

27	李重民	人間失格	2017年8月	浙江文艺出版社	人間失格, GOODBYE, 維榮的妻子, 滿愿, 候鳥, 阴火心灵的王者, 秋風記, 雪夜的故事, 美男子与香烟, 奔跑吧, 梅勒斯, 二十世纪旗手
28	廖雯雯	人間失格	2017年8月	四川人民出版社	译者序, 人間失格, 斜阳
29	海哲	人間失格	2017年10月	中国致公出版社	人間失格, 維榮之妻, 东京八景, 断崖的错觉, 古典風, 秋風記, 審大談, 关于愛与美, 义务, 某些忠告, 诸位的位置, 前进一步退两步
30	楊 晔	人間失格	2017年11月	煤炭工業出版社	译者序, 人間失格, 維永之妻, 斜阳
31	王倩倩	人間失格	2018年1月	江西教育出版社	人間失格, 斜阳, 女生徒, 櫻桃
32	孫曉傑	人間失格	2018年3月 2021年10月表紙 改版	中国婦女出版社	单行本
33	偉 祺	人間失格	2018年4月 2019年6月	北京工艺美术出版社 花山文艺出版社	人間失格, 魚服記, 小丑之花, 逆行, 阴火
34	高 艷	人間失格	2018年5月第1刷 2018年12月第2刷 表紙改版 2019年11月精装版 2020年5月第1刷	北京燕山出版社	人間失格, 維庸之妻, 富岳百景, 櫻桃, 魚服記, 雪夜的故事, 等待, 皮肤与心, 太宰治历年发表作品索引
35	新銳智 园書事 業部	人間失格 人間失格 (日漢对訳)	2018年7月 2019年7月	北京時代華文 書局	单行本 单行本(日漢对訳)
36	吳 曦	人間失格	2018年9月	湖南文艺出版社	人間失格, 小丑之花, 奔跑吧, 梅勒斯, Goodbye, 維庸之妻
37	職建麗	人間失格	2018年9月	浙江工商大學 出版社	人間失格, 斜阳, 逆行, 維榮之妻, 魚服記
38	名翻譯 家編集	人間失格	2018年11月	台海出版社	人間失格, 斜阳, 維榮之妻, Goodbye
39	小岩井	人間失格	2019年1月	浙江人民出版社	人間失格, 斜阳, 維庸之妻, 奔跑吧, 美勒斯, 叶櫻与魔笛, 滿愿, 美男子与香烟, 櫻桃
40	任艷紅	人間失格	2019年3月初版, 2020年4月第3刷表 紙改版	北京燕山出版社	人間失格, 維榮之妻, 斜阳
41	鐘于英	人間失格	2019年4月	哈爾濱出版社	人間失格, 女生徒
42	王 興	人間失格	2019年5月	煤炭工業出版社	人間失格, 斜阳, 暗火(陰火), 太宰治生涯
43	田 原	人間失格	2019年5月 2019年8月	中信出版集團 台灣時報	单行本: 人間失格, 附录一: 太宰治情感图, 附录二: 太宰治年譜, 译后记: 温柔与纯粹的生死劫, 中島京子, 平野啓一郎, 多和田葉子, 阿部公彦のコメント
44	青 禾	人間失格	2019年6月	江蘇鳳凰文艺 出版社	人間失格, 斜阳, 維庸之妻, 奔跑吧! 梅勒斯, 美男子与香烟, Goodbye, 櫻桃
45	王荣波	人間失格	2019年7月	延辺教育出版 社	人間失格, 維庸之妻, 斜阳, 奔跑吧! 梅勒斯, 道化之花, 美男和烟, 附记, 实现愿望, 等候, 秋風記, 雪夜, Goodbye, 微亮, 櫻桃, 磷火, 出生, 千紙鶴, 火车, 尼姑
46	童滿驍	人間失格 人間失格	2019年7月初版 2021年1月第9刷 2019年11月	北京聯合出版 公司 中国華僑出版 社	人間失格, 維庸之妻, Goodbye, 灯笼, 滿愿, 美男子与香烟 人間失格, 維庸之妻, Goodbye, 灯笼, 滿愿, 美男子与香烟

		人間失格	2019年8月	民主与建設出版社	人間失格, 維庸之妻, Goodbye, 灯笼, 満愿, 美男子与香烟
47	鄒楽帆 (編訳)	人間失格	2019年8月	黒龍江美術出版社	人間失格, 斜阳, Goodbye
48	羅松滔	人間失格	2019年9月	陝西師範大学出版社	人間失格, 小丑之花, 狂言之神, 虚構之春, 二十世紀旗手, 櫻桃
49	鄒宇	人間失格	2020年4月	北方文艺出版社	人間失格, 斜阳, 阴火, Goodbye, 太宰治年表
50	潘佳焯	人間失格	2020年6月	山西人民出版社	人間失格, 斜阳
51	孫逢明 (日漢対訳)	人間失格 (日漢対訳)	2020年9月	海豚出版社	日漢対訳イラスト版
52	遊一行 編訳	人間失格	2020年12月	中訳出版社	人間失格, 維庸之妻, 満愿, 小丑之花, 秋风记, 女生徒, 雪夜的故事, 櫻桃, 皮肤与心, Goodbye
53	劉子倩	人間失格	2021年1月	時代文艺出版社	人間失格, 附录, 三島由紀夫談太宰治, 山崎富栄簡介, 雨之玉川情死(节选), 致鶴卷夫妇, 太宰治年表
54	王太芳	人間失格	2021年3月	長江出版社	単行本: 译者序, 太宰治年表, 给美知子的遗书(美知子への遺書)
55	文潔若	人間失格	2021年5月	重慶出版集團	単行本
56	張佳東	人間失格	2021年5月	天地出版社	人間失格, 美男子与香烟, 維庸之妻, 斜阳櫻桃, 二十世紀旗手, Goodbye, 太宰治年譜
57	李諷琳	人間失格	2021年6月	人民文学出版社	人間失格, 櫻桃, 斜阳

備考: ① 一覧表は翻訳者名, 出版年代順を基準に, 初版, 最刷, 再版年月も考慮して作成したものである。

② 収録作品名は中国語訳で並べ, 一部分の中国語訳作品名に原作名をつけている。

③ 単行本, 日漢対訳版, イラスト版など収録作品欄で明記している。